

『栄養補助食品、特別食加算、減塩食、濃厚流動食、食事もいろいろ考えなくてはなりません』

今回の記事は「2024年7月、パリでオリンピックが始まりました」から始めなくてはならないでしょう。歴史ですから。派手な開会式でした。ビジネスショーです。相当なお金がかかっています。これが当然のことになりましたが、やりすぎではないかと思ったり。1964年の東京オリンピックや、高校野球甲子園での入場行進のように、もっとシンプルでもいいんじゃないかと思うのですが、考えが古すぎる？

アメリカでは、11月の大統領選に民主党のバイデン大統領が出馬を取りやめ、副大統領のハリス氏が民主党の公認候補となるようです。銃撃されたトランプ氏との闘い。バイデン氏は84歳、トランプ氏は79歳、そしてハリス氏は59歳です。バイデンとトランプか、高齢者同士の戦い、情けない、アメリカにはもっと若い優秀な人物はいないのか、と思っていたので、よかった。共和党からも、もっと若い人が出てきたらいいのに。もっと若くて、本当に国のこと、世界のことを考えている人が政治を動かすべきだと、私は思っています。そうしないと、世界中が変な方向へ行ってしまう、そんな危惧があります。

7月の梅雨、24日から26日にかけて秋田県、山形県で豪雨。大きな被害がありました。想像を超えた被害だそうです。酒田市、遊佐町、50年前に剣道部の合宿で行ったことがあります。最上川が氾濫、驚きました。この豪雨と並行して猛暑。特に7月の中旬からは35℃以上の猛暑日です。日本は本当に暑くなりました。40℃を超えた所もあります。この暑さ、8月いっぱい続くとのこと。沖縄や石垣島のほうが最高気温は低い。地球温暖化はどんどん進んでいます。どうなのでしょう。

7月5日の臨床栄養学Ⅱの講義では、森永乳業クリニコに濃厚流動食の試飲・試食会をしていただきました。学生だけでなく、栄養学の先生達も参加していただき、非常に有意義だったと思います。ありがとうございました。学生達は試飲よりも試食のほうに興味があったようです。流動食を飲んだ後、お茶や水を飲んでいました。口直し？おいしいのに。リハタイムゼリーは、本当、非常においしい！とりえず、濃厚流動食を味わってくれたら、それでいいか、という感じ。

7月は2つの学会に出席。21日は仙台で開催された「第49回日本超音波検査学会」。ニプロ株式会社共催の企業セミナーで、「エコー下静脈穿刺の有用性～IPエコー開発から臨床応用～」として講演。企業セミナーだから聴講者は数人だろうと予想していたのですが、聴講者は200人ほど、よかった！この学会の参加者のほとんどは超音波検査が専門の検査技師さん。「超音波診断の素人だから開発できたIPエコー」という雰囲気でも講演しました。仙台と言えば牛タン。晩飯は牛タンを予定していたのですが、有名店はどこも行列。あきらめて地元の料理が食べられるお店へ行き、牛タンも食べました。帰りの仙台空港で牛タン定食を食べようとしたのですが、ここも待ち時間と出発時間の関係でダメ。牛タン弁当を食べました。前日の昼飯は冷やし中華発祥の店「龍亭」で冷やし中華を食べました。観光は、もちろん青葉城へ。



↑千里金蘭大学の七夕飾りです。管理栄養士に受かりますように、国家試験合格できますように、その通りの願い事。みんなで第39回管理栄養士国家試験に合格できますように！私も願っています。「井上先生の単位がほしい！」との願い。私はあげたいんですよ、もちろん。がんばって試験さえ通ってくれたら。



↑森永乳業クリニコ株式会社にお願ひして、濃厚流動食の試飲・試食会をしていただきました。やはり、現状の濃厚流動食はおいしくないというイメージは間違っている、おいしく飲める、と理解してもらう必要があると思うのです。貴重な経験になったと思います。クリニコの中島さん、大門さん、小林さん、ありがとうございました。また、お願いします。

伊達政宗公の銅像がきれいになっていたそうです。その後、瑞鳳殿へ。坂道がかなり急で長い。気温が高くて汗だくになりました。仙台って東北だから、もっと涼しいと思っていたのに。暑かった！

26日は、大阪大学小児外科の奥山教授が会長の第61回日本外科代謝栄養学会が大阪国際会議場で開催されました。私は最後のセッション「シンポジウム：脂肪乳剤投与の核心に迫る！～脂肪乳剤の未来は？」で特別発言をさせていただきました。特別発言とは「自分が思っていることを正直に発言しても特別に許される」なんて、勝手な解釈をして、勝手な発言をしてきました。私が言いたかったのは、脂肪乳剤云々よりも、まずは、きちんと静脈栄養を理解すること、それが達成できたら自然に脂肪乳剤を使うようになるだろう、医師に対する教育が大事、だったのです。脂肪乳剤が積極的に使われるようになれば、オメガベンや SMOFlipid も導入できるはずですよ。喜んでいただいた方もいたようです。これが最後の外科代謝栄養学会への参加になるかなあ。終わってから、松末先生と食事しました。楽しい時間でした。

7月27日は千里金蘭大学のオープンキャンパス。私は担当ではなかったのですが、何か、力になればと思って参加。栄養学部の先生達、協力してくれている学生さん達と話をしているいい機会です。今回、参加してくれた生徒さんは23名。「実際に病院で活躍する管理栄養士を育成するための教育をしています」と宣伝しました。かなりがんばった気がするのですが、来年の入学者は増えるでしょうか。有効であって欲しい！でも、あまり効果はない？少子化時代なので、学生集めが大変。私は千里金蘭大学に来るまで、オープンキャンパスというものがあることすら知りませんでした。栄養学部の先生達との会話も楽しい。ケント先生とは英語交じりの日本語？日本語交じりの英語？で楽しい話ができました。いい人です、本当に。英語を苦手だという学生が多いと困っていました。私が講義の中で英語の単語を覚えさせているのは、学生達の間で評判が悪いのですが、英語は大事だとケント先生と意気投合しています。栄養士の英語：Dietitian を書けない栄養士は栄養士ではない！？本当に大事！

臨床医学Ⅰの前期試験は終わりました。臨床栄養学Ⅱの試験は8月2日。臨床栄養学Ⅱの試験では英語の問題も出しています。いい機会だから、臨床栄養を理解するために必要な英語、単語だけでも、しっかり覚えなさいよ。それに、出る問題を全部、プリントして渡しているんですよ、その中から同じ問題を出すんですよ、だから、全員、合格してください。再試験はしないと宣言しています。こんな優しい先生はいないでしょう？



↑ 外科代謝栄養学会の閉会式後、記念写真を撮っていただきました。IVH 研の根津先生と私は高齢者だから前に座らせていただいて、奥山会長はもちろん真ん中。鹿児島大学の武藤先生、東北大学の和田先生、兵庫医大に移られた田附先生と・・・でした。

7月27日は千里金蘭大学のオープンキャンパス。私は担当ではなかったのですが、何か、力になればと思って参加。栄養学部の先生達、協力してくれている学生さん達と話をしているいい機会です。今回、参加してくれた生徒さんは23名。「実際に病院で活躍する管理栄養士を育成するための教育をしています」と宣伝しました。かなりがんばった気がするのですが、来年の入学者は増えるでしょうか。有効であって欲しい！でも、あまり効果はない？少子化時代なので、学生集めが大変。私は千里金蘭大学に来るまで、オープンキャンパスというものがあることすら知りませんでした。栄養学部の先生達との会話も楽しい。ケント先生とは英語交じりの日本語？日本語交じりの英語？で楽しい話ができました。いい人です、本当に。英語を苦手だという学生が多いと困っていました。私が講義の中で英語の単語を覚えさせているのは、学生達の間で評判が悪いのですが、英語は大事だとケント先生と意気投合しています。栄養士の英語：Dietitian を書けない栄養士は栄養士ではない！？本当に大事！



↑ サンケイ新聞のテレビ欄にありました。大学の名前だけなんですけど。なにか、効果があるんでしょうね。東宝塚さとう病院の小林さんが見つけてくれました。1日だけかと思っていたら、次の日の新聞にも掲載されていました。毎日、掲載されているのでしょうか。調べておきます。でも、学生達も知らないんじゃないかなあ。

臨床医学Ⅰの前期試験は終わりました。臨床栄養学Ⅱの試験は8月2日。臨床栄養学Ⅱの試験では英語の問題も出しています。いい機会だから、臨床栄養を理解するために必要な英語、単語だけでも、しっかり覚えなさいよ。それに、出る問題を全部、プリントして渡しているんですよ、その中から同じ問題を出すんですよ、だから、全員、合格してください。再試験はしないと宣言しています。こんな優しい先生はいないでしょう？



↑ 産経新聞の教育欄に「千里金蘭大学では医療現場の栄養管理最前線のリアルを教えている」という記事が2月に掲載されました。これは大学のいい宣伝になると思っていたのです。やっど、大学の掲示板に掲載されました。しかし、クラスに注意！の隣？残念！と思っていました。その後、「その他・連絡事項」の所に貼り出されました。とにかく、学生達が「うちの大学ではこういう教育が行われているんだ」と知ってくれたらいいんです。学生達がそう理解してくれたら千里金蘭大学を選ぶ学生も増えると思うんです。大学には掲示板はたくさんあるんだから、もっといろんな所に貼ってもいいかも。

ゼン先生：先生、パリオリンピックが始まりました。

小越先生：そうか。どうせ、派手な演出をしたんだろう。

ゼン先生：入場行進はセーヌ川を船で行進して、ド派手な演出でした。ルーブル美術館、エッフェル塔などを活用して競技も開催するとのことですよ。

小越先生：へええ。すごい大会になるんだろうな。

ゼン先生：どうでしょうか。

小越先生：時差の関係で、競技は夜が中心だろう。テレビを見るのも大変だぞ。

ゼン先生：日本人の活躍を期待してはいますが、テレビで分かりやすく解説してくれるはずなので、それを見ることにしています。

小越先生：確かに。競技もものすごく多いからな。

ゼン先生：オリンピックはまだ始まったばかりですから、この話は次回にしましょう。

小越先生：そうだな。

ゼン先生：7月12日の臨床栄養学Ⅱは公開授業でした。

小越先生：公開授業？

ゼン先生：私の学生への講義を、大学の先生達が評価するのです。栄養学部だけでなく、看護学部、教育学部の先生も聞いてくれたようです。何人かは知りませんが。

小越先生：へええ。勝手な講義をしていると思われたんじゃないか？

ゼン先生：そうかもしれませんが、いいんです。井上流で講義していますから。駄目な講義だと言われても、別に構わないでしょう。

小越先生：相変わらず素直じゃないな。でも、井上流以外の講義はできないんだから、そのくらいの開き直りでいいかもしれない。

ゼン先生：ありがとうございます。結構、評価は高かったと思っていいようです。

小越先生：そうか、それはよかった。

ゼン先生：授業の進め方は適切であった？声の大きさや口調（スピード）は適切であった？スライド等の使い方や字の大きさは適切であった？創意・工夫が感じられた？**熱意**が感じられた？の5項目なんです。

小越先生：へええ、細かい採点なんだな。

ゼン先生：いろいろ評価してもらおうと、いい勉強になります。私の公開授業はこれで終わりです。

小越先生：確かに。そう何回もするものではないな。ところで、どんな内容にしたんだ？

ゼン先生：今回は、**胃瘻問題**を中心に講義しました。

小越先生：栄養学部の学生に胃瘻について講義？興味ないんじゃないか？

ゼン先生：どうでしょうか。管理栄養士は、経腸栄養だけでなく、胃瘻 - 経腸栄養の適応なんかも理解しておくべきだと思う



↑青葉城の伊達政宗公の銅像の前で記念写真。伊達武将隊に撮っていただきました。暑い、熱い日でした。汗だくになりました。



↑日本超音波検査学会です。座長をしていただいた藤田先生はちゃんとスーツ、ネクタイ。演者の私はこんなラフな格好で講演しました。これは沖縄の「かりゆし」なので、公式の場で着用してもいいんです。



↑仙台での日本超音波検査学会では「超音波診断の素人だから開発できたIPエコー」として講演させていただきました。最近、やっと、このIPエコーのすばらしさが知られるようになって、広まっているようです。実際に使っていただくと、その良さ、すばらしさがわかります。まるで実際に血管を見ながら穿刺しているような感覚で穿刺できます。

ているんです。

小越先生：まあ、そうだろう。それに、胃瘻 - 経腸栄養の実施方法も知っておくべきだ、確かに。

ゼン先生：先生達のほうが興味をもって聞いてくれたかもしれません。胃瘻についての話なんて、ほとんど聞いたことがないんじゃないでしょうか。

小越先生：そうなのか？

ゼン先生：管理栄養士さんばかりなので、やっぱり、食事中心で仕事をしてこられたようですから。

小越先生：胃瘻について詳しい管理栄養士さんは少ないんだろうか。

ゼン先生：現場では多いと思います。しかし、大学ですから。臨床の場を本当に理解している教官はそう多くないんじゃないでしょうか。

小越先生：確かに。現場でも胃瘻について正しい解釈がされているかというところでもないのだからな。

ゼン先生：そう思います。「胃瘻を造設すると食べられなくなる」と思っていた、講義で正しい考えが理解できてよかったと感想をメールで送ってくれた先生もいました。

小越先生：へええ。それはよかったな。一人でもちゃんと理解できるようになったと言ってもらったら、講義をした甲斐があるというもんだ。

ゼン先生：そうなんです。うれしいメールをありがとうございましたと返信しました。

小越先生：やっぱり、胃瘻についての誤解は解消されていないんじゃないか？

ゼン先生：そう思っています。実態調査はされていませんが。

小越先生：実態調査？調査しなさいよ。君がしなくて、他に誰がやる？

ゼン先生：そう思っているんです。学生の卒業研究で胃瘻に対する考え方についてアンケート調査をしようとしたんですが、倫理委員会でものすごく制限されて、少々困っていますが、私なりに、次の手を打とうとは思っています。やっぱり、胃瘻に対する考え方の現状を知ることは、次の手を打つためにも大事ですから。

小越先生：本当に大事な仕事だと思うよ。まあ、がんばりなさい。

ゼン先生：はい。めげません。

小越先生：それはそうと、森永乳業クリニコさんに来てもらって、臨床栄養学の講義中に試飲会をしたんだって？

ゼン先生：はい。やってもらいました。クリニコの中島さんには、本当、感謝、感謝です。本当にいい人です。

小越先生：3人で食事をしたことがあったな。

ゼン先生：そうでしたね。先生の家にお邪魔させていただき、部屋から東京タワーを見せていただきました。

小越先生：ははは、そうだったな。

ゼン先生：その試飲会ですが、クリニコさんが千里金蘭大学に来て試飲会をしてくれるなんて、よく考えるとありえないことなんですよ。

小越先生：確かに。どの大学でも実施してもらえることではない。

ゼン先生：そうですね。私が千里金蘭大学の栄養学部にいるから、クリニコさんがこんな機会を作ってくれているんです。学生達は、どれだけ理解してくれているのかなあと思ったりしますが。



↑ 駐車場から瑞鳳殿までの坂道、石段です。暑い、汗だく。息切れ、足の疲れ、大変でした。



↑ 伊達政宗公霊屋の瑞鳳殿です。第二次世界大戦で焼失したのですが、戦後、1984年に再建されたものです。ものすごく精巧に作られた建造物だと感心しました。



↑ 空港でゆっくりと牛タン定食を食べたかったのですが、時間がなくて、このお弁当を食べました。右は、仙台の三角あぶら揚げ。有名なそうです。

小越先生：そこは考えないことだ。学生達がどう思うか、なんて考えず、君ができることをやってやればいいんじゃないか。ちゃんとわかってきている学生もいるはずだ。

ゼン先生：その割合も気になるんですよ。受講生45人のうちの何割が理解してくれているのか、なんて。

小越先生：細かいことを考えなさんなよ。1人でもいい、1人で

もわかってくれたらいい、そのくらいの気持ちでやるのが教育なんじゃないか？

ゼン先生：たった1人？それでもいいんでしょうか。

小越先生：教育とはそんなものだよ、きっと。

ゼン先生：きっと？

小越先生：多分・・・おそらく・・・。

ゼン先生：わかりました。そのくらいの考え方でやります。

小越先生：そうしなさい。しかし、学生達は楽しんでたんじゃないか？

ゼン先生：そうだと思います。試飲会って、非常に楽しいんでしょうね。星薬科大学でやった時も、学生達、喜々として試飲・試食していました。

小越先生：そうだろうな。それに、講義を聞かなくてもいいから。

ゼン先生：・・・まあ、そうでしょう。学生達がどういう風に試飲・試食しているかと思って見ていたんですが、流動食の試飲より、ゼリーなどの試食のほうが人気でした。

小越先生：そうか。どうこういっても、濃厚流動食は甘いし、濃いから。

ゼン先生：次回からは、濃厚流動食は少な目でもいいと思います、量としては。種類は必要ですけど。

小越先生：まあ、とりあえず味わってもらっておけばいいんじゃないか。

ゼン先生：そうですね。現場でも、病棟で栄養補助食品を提供することが多くなっています。

小越先生：そうだな。食事摂取量が少ない場合には、補食に栄養補助食品として、濃厚流動食やゼリーなんかを提供している。サプリメント的使い方かな？

ゼン先生：でも、最近、その栄養補助食品の費用をどうするかが問題になっているんです。

小越先生：サプリメントの費用？

ゼン先生：そうなんです。これは食事ではありませんから。病院側が購入して提供していることになります。

小越先生：そうなのか。そうすると、その費用は病院からの持ち出しになるんだな。

ゼン先生：そこが問題になってきています。病院としてもばかにならない金額だそうです。

小越先生：食事が少ない患者さんでも、食事療養費は同じだろう？

ゼン先生：もちろんです。食事を半分しか食べていないからといって、その中に栄養補助食品を加えるという風にはいかないうです。最近は食事を外注している病院が多いでしょう？だから、いろいろ契約上の問題もあるようです。

小越先生：なるほど。そこのところは難しい問題なんだろうな。



↑ 冷やし中華発祥のお店、龍亭です。私はここは2回目。混んでいて、少々待たされましたが、待った甲斐がありました。冷やし中華だけではもったいない、ということで、マーボー焼きそばとチャーハンも食べてしまいました。一人でももちろん、3人で、です。



↑ 私が、外科の外来診療と病棟の栄養回診をしている東宝塚さとう病院です。心臓センターでもあります。私、まだ外科医として仕事をさせていただいているのですが、まあ、もう、高齢者ですからね。読売新聞に掲載された、東宝塚さとう病院の佐藤理事長の記事です。大動脈解離に対する治療を積極的に実施している、との内容です。救急での受け入れも、もちろん、積極的に実施しています。私が言うのなんですが、佐藤理事長はすばらしい心臓血管外科医です。

ゼン先生：栄養補助食品で補充できないんだったら、医薬品を使えばいいんじゃないか、という考え方もありますが、DPCの病院では、それもほとんど意味がないことになります。

小越先生：難しい問題なんだな。

ゼン先生：そのようです。栄養補助食品や経腸栄養剤を用いるSON (supplemental oral nutrition: 補完的経口栄養法) も有効だと提唱しているんですけど。

小越先生：それはオレもいい方法だと思っているよ。

ゼン先生：でも、お金の問題を解決しないといけないんです。

小越先生：患者さんに買ってもらったらいいんじゃないのか？

ゼン先生：私も単純に、そうすればいい、患者さんに買ってもらったらいい、と思っていましたが、そう簡単ではないようです。

小越先生：要するに、患者さんが、十分に食事を食べてくれたらいいんだよ。

ゼン先生：もちろんです。でも、食べてくれない、食べられない患者さんがたくさんいます。

小越先生：それが一番の問題だろう？

ゼン先生：素人的発想かもしれませんが、ハーフ食をオーダーしたら、原材料費は半になるんだから、それに栄養補助食品を加えることができる、そういう契約をすればいいんじゃないかと思うんですが。

小越先生：それは正しい発想なんじゃないか？

ゼン先生：そうかもしれませんが。医事課、外注の会社の人にゆっくり解説してもらわなくてはなりません。

小越先生：その通りだ。餅は餅屋、だよ。

ゼン先生：もう一つ、病棟を回診して思うんですが。東宝塚さとう病院は、循環器疾患の患者さんが中心なんです。

小越先生：そうだってな。私立病院として、非常に症例数が多いんだろう？

ゼン先生：そうです。循環器疾患の診断と治療では、関西でも有数です。心臓外科は、大血管の手術を積極的にやっていて、緊急も受けていますから。

小越先生：理事長は君の後輩なんだろう？

ゼン先生：そうです。佐藤理事長とは一緒に腹部大動脈瘤の手術をしたこともあります。後輩ですが、大したもんですよ。個人病院です。

小越先生：君はその後輩の病院で働かせてもらっているんだ。



↑ 左上はICUの栄養グループだとのこと。持っているのは成分栄養剤のエレンタルです。ホームページから盗用しました。残りの3枚は栄養回診の写真。そういえば、最近、栄養回診の写真を撮っていないなあ。今度、撮ろう！



↑ オープンキャンパスです。上は、料理を選んで、何カロリー？成分は？を測定できるようにになっているものです。そして栄養指導をするのです。私？栄養指導をしていただく立場でございます。下は、各研究室の活動内容を示すパネルです。いろいろ研究もしておられますので、それを、オープンキャンパスに来てくださった生徒さん、親御さんに説明するのです。千里金蘭大学へ来たら、こんなすばらしい学生生活を送れますよ、です。おもてなし、です。



↑ 私も少しは貢献しようと思って、こういうパネルを作っています。経腸栄養の投与経路、経鼻カテーテル、胃瘻カテーテル、CVポートなども見ていただけるようにしています。貢献できているのかなあ。入学前に、病院で働きたいかどうか、決めている生徒さんはほとんどいないでしょうし。テルモで作成した輸液マニュアルをプレゼントしたりして、こんな性格の私が「おもてなし」をしているのです。もちろん、似合わないのですが、一応、千里金蘭大学栄養学部の教授なので、こういう仕事もしているのです。でも、まあ、決してイヤではありませんよ。でも、好きではありません、正直なところ。がんばっています。

ゼン先生：そうなんです。ありがたいことです。私、この病院に
来た時、緊急手術を引き受ける時のスタッフに少々驚いたんで
す。公的病院って、緊急手術？いやだなあ、という雰囲気があ
ったんですが、さとう病院のスタッフは緊急手術の時にも喜々
として仕事をしていましたから。

小越先生：すばらしいじゃないか。

ゼン先生：そうなんです。それから、エホバの証人の手術をたく
さん受けているんですよ。

小越先生：へええ。嫌がる病院が多いのに。

ゼン先生：きちんと対応しています。理事長は第一外科の出身
なので、栄養管理についても理解度が高いんです。

小越先生：そうか、それはすごいじゃないか。

ゼン先生：そうなんです。先生、この話がしたかったんじゃな
くて、循環器疾患が多いので、減塩食が多いという話がしたか
ったんです。

小越先生：ははは。でも、東宝塚さとう病院がいい病院だとい
う紹介も大事だよ。

ゼン先生：もちろんです。栄養回診もちゃんとやっています。特
に看護部が栄養管理に力を入れています。

小越先生：へええ。看護師が栄養管理に力を入れているんだ。

ゼン先生：はい。看護師の栄養管理に対する関心は高いし、レベ
ルも高いと思います。栄養回診での会話もなかなかハイレベ
ルです。NST 加算は申請していませんけど。

小越先生：ええ？加算は申請していないのか？

ゼン先生：はい。逆に、本当に栄養が大事だという認識で活動し
ている。だから、看護師さん達も本気で栄養管理に取り組んで
いるのだと理解しています。

小越先生：すばらしい。

ゼン先生：ええっと、この話も大事なんです。減塩食の話がし
たいんですが。

小越先生：すまん、すまん、話をそらせてしまったか。

ゼン先生：私が逸らせたんですから、いいんですけど。

小越先生：減塩食の話をしよう。しかし、君が食事の話をする
のは珍しいじゃないか？

ゼン先生：そうですね。栄養回診の時も、看護師さんと管理栄養
士さんが食事の話をしている時、「僕は食事のことはよくわから
ないから、任すわ」と言って、別のスタッフと雑談したりして
いますから。

小越先生：でも、減塩食の話をしたいんだろう？

ゼン先生：そうなんです。患者さんの中には、病院食が嫌だとい
う患者さんもいます。なんで？おいしいやろう？僕はあなた方
の食べている、この病院の食事でも食べているからわかるけど、
おいしいと思うよ、と言うと、患者さんは、味が薄いって言う
んです。

小越先生：なるほど。味が薄い、か。

ゼン先生：もともとは関東の生まれなので、という患者さんも



↑ 確か、左の写真は5月です。右のように、たくさんの花になって
います。同じ種類の花ですね。植物にも弱い私。多分、左の花が
成長して右のようになった・・・はず。やっぱり違う？すみま
せん。

いますけど。

小越先生：確かに。関東のほうが味が濃いな。

ゼン先生：今は違いますが、初めて東京でうどんを食べた時、な
んじゃ、このうどんの出汁、真っ黒や、と思ったのはよく覚え
ています。

小越先生：ははは、その通りだ。

ゼン先生：それは別として、減塩食だから、塩分が少ないから、
味が薄いということなんですよ。

小越先生：確かに。

ゼン先生：心臓疾患、腎疾患、高血圧などに対する塩分制限食
は、特別食加算になるんです。

小越先生：減塩食での特別食加算が多いんだろう、病院の特徴
として。

ゼン先生：そう思います。でも、減塩食で減塩になっている上
に、あまり食事が進まなければ、超減塩食になってしまうんじ
ゃないかと思うんですが。

小越先生：超減塩食か、いい表現だ。塩分が6g 以下なのに、半
分も食べなかったら3g 以下になるから、確かに、超減塩食だな。

ゼン先生：食塩を減らしても、おいしい料理にする工夫もいろ
いろしておられますけど。

小越先生：確かに。昔に比べると相当おいしくなっていると思
うよ。

ゼン先生：でも、味が薄いという患者さんが多いんです。そうい
う時、私はよく、普通食に変更しようと提案するんです。普通
食でも半分しか食べなかったら減塩になりますから。

小越先生：まあ、単純な発想だけど、間違っていないかも。

ゼン先生：でも、特別食加算というのが問題なんですよ。

小越先生：特別食加算か。病院の経営にとっては大事だよな。

ゼン先生：そうなんです。それに、管理栄養士がどれだけがんば
っているかの評価にもなると聞いたことがあります。

小越先生：そういうことか。だから、特別食加算をできるだけ
たくさん出したいんだな。

- ゼン先生**：そうなんです。管理栄養士さん達も大変なんです。
- 小越先生**：最近では物価が上がって、食事にかかる費用もものすごく上がっているんだろう？
- ゼン先生**：ものすごい物価高です。牛丼が 500 円では食べられなくなりました。私が学生の時、牛丼の並は 250 円でした。
- 小越先生**：比較が古すぎるよ。
- ゼン先生**：すみません。円安でそれが加速しています。ハワイなんて、ラーメンが 3000 円以上だそうです。だから、日本へ来る外国人は日本は安いと言っているようです。
- 小越先生**：外国人にとって、日本はなんでも安いんだろう。
- ゼン先生**：インバウンドのおかげで、ホテル代だってものすごく高くなっています。
- 小越先生**：外国人が日本に押し寄せると、経済的には潤うかもしれないが、日本人が生活しにくくなるな。
- ゼン先生**：本当にそうです。そっちのほうの問題だと思っているんです。
- 小越先生**：なんでも高くなっているんだな。そうすると、病院の食事だって、本当は値上げしたいんだろう。
- ゼン先生**：もちろんです。今年の 6 月から食事療養費が 1 食あたり 640 円から 670 円に改定されましたが。
- 小越先生**：1 食で 30 円の値上げか。その程度じゃどうしようもないだろう。ひどい話だ。
- ゼン先生**：本当です。食事療養費、1 食あたり 670 円です。800 円くらいに上げないと病院も経営が苦しいはずですよ。それに、食事だけでなく濃厚流動食だって、企業は値上げしたいのに納入価を上げられなくて困っているようです。
- 小越先生**：にっちもさっちも行かないってとこだな。
- ゼン先生**：医療器具もなんです。石油の値上がりでプラスチックの値段が上がっているの、値上げしたいけど、なかなかできないと言っていました。
- 小越先生**：本当だな。どこも苦しくなっているんだな。
- ゼン先生**：そうなんです。そのなかでいろいろ工夫して、患者さ

第16回静脈経腸栄養管理指導者協議会学術集会 開催概要

- 日 時：2024年9月21日(土)～22日(日)
○会 場：プラザ萬象 小ホール(福井県敦賀市)
○当番会長：林泰生(杉田玄白記念公立小浜病院)



↑9月21日、22日、第16回リーダーズ学術集会を、福井県敦賀市で開催します。会長は杉田玄白記念公立小浜病院の林先生です。「杉田玄白」を知らない医療者はいないでしょうね。この3月に北陸新幹線が敦賀まで延伸しました。関東からも北陸新幹線1本で敦賀まで来ることができます。関東の方に大勢、参加して欲しい。福井と言えば「蟹」ですが、「おろしそば」「ソースカツ丼」もあります。気比神社もあります。活発な議論をするために参加してください。演題は十分に集まっています。事前登録も始まっています。敦賀へ行きましょう。

んの栄養状態を良くしようとしているんですけどね。

小越先生：静脈栄養でサポートする方法もあるけど、なかなか、そうもいかないだろう。

ゼン先生：もちろん、うまく使えばいいと思うんですが・・・。

【今回のまとめ】

- 暑い、熱い夏が始まりました。熱中症にも気を付けてください。私自身、古希なので、注意しなければなりません。
- 栄養学部の教官として、私なりにがんばっているつもりなんです、なかなか、です。
- 外科代謝栄養学会で脂肪乳剤について意見を発表してきました。脂肪乳剤云々の前に、静脈栄養のレベルアップが必要だ、教育が必要だ、と強調してきましたが。
- 食事に加える栄養補助食品の費用をどこから捻出するか、それが問題になっています。どなたか、いいアイデアというか解決策があれば教えてください。
- 特別食加算、減塩食、食事療養費、いろいろ問題があるのですが、私、この領域は弱いのです。また、いろいろ教えてください。